

令和7年度 第1回足柄高等学校学校運営協議会 会議概要

令和7年6月12日（木）
足柄高等学校 会議室

協議 令和6年度、令和7年度学校評価報告書について

【校長】

- ・新カリキュラムが動き始めて3年が経ち、手直しが必要になっている。生徒の力を最大限引き出す科目設定を検討したい。
- ・インクルーシブ教育実践推進校としては、形骸化している部分や制度設計の段階から変化している部分もあり、見直す時期に来ていると考えている。
- ・具体的には、TTの科目や、リソースルームの活用方法について見直しを行いたい。

【教務グループ】

- ・進学に力を入れていく部分と、特別募集の生徒の進路希望に対応する部分、幅広いニーズに対応する教育課程を構築する。
- ・一人ひとりの適正、関心を伸ばし、生徒の希望する進路の実現を目指す。

【情報管理グループ】

- ・一人一台端末も3年が過ぎ、端末を使った授業も積極的に取り組める環境になってきた。さらに教員が使いやすいよう工夫することで、利用が増えてほしいと考えている。
- ・朝読書をAshi活に変更し、取組み内容が変化した。ここでも端末の使用が定着しつつある。

【生徒支援グループ】

- ・かながわ子どもサポートドックにより、気になる生徒についてはSSW、SC、担任、サポート担任で積極的な面談を行う。
- ・今年度も、自転車の乗り方について地域から連絡が寄せられている。講座やLHR等を通じ、具体的な数字を使いながら、生徒の交通安全意識を高めていく。
- ・自転車用ヘルメットの着用率が低いため、交通安全委員会で啓発活動の計画を立てている。

【生徒会グループ】

- ・6月6日（金）に実施した体育祭では、昨年度に増して生徒に企画や当日の進行などの運営を任せた。閉会式では各団の団長が涙する場面もあり、達成感があったと考えている。
- ・部活動の加入率が上がらないことが課題。さらなる活性化を目指している中で、今年度の新入生の加入率は、ここ何年かの中では高くなかった。

【進路グループ】

- ・3月に卒業した46期生は、大学への進学が多かった。46期生は、3年次の4月に行った進路希望調査と、実際の結果との差も例年に比べ少なかった。
- ・要因として1、2年次から自己の進路についてしっかり考えられていたことがあげられるのではないか。今年度も継続できるように取り組んでいる。
- ・総合的な探究の時間を軸に体系的、組織的なキャリア教育を展開していく。
- ・1年生の地域理解については、地域企業講話等を行う予定。自分の興味関心はどこにあるのか

を知るため、1年次から丁寧にキャリア教育を展開する。

- ・Ashi 活の時間に「ニュースピックアップ」として気になる記事を選び、短文で意見や感想を書く活動をしている。社会に対して目を向けることはもちろん、選んだ記事が蓄積されることで自分の興味関心の傾向を知ることができる。
- ・これまで特別募集の生徒への就職指導、進学指導のノウハウを蓄積してきた。この蓄積について、特別募集の生徒以外の生徒一人ひとりに対しても展開していきたい。

【情報管理グループ】

- ・今年度はSNSやWEB発信も一層の充実を図る。学校説明会には生徒も参加し、生き生きとした姿を発信する。
- ・新入生アンケートの分析結果を踏まえ、足柄高校の穏やかで明るい雰囲気、安心して過ごせる環境をPRポイントとしたい。
- ・開校50周年を機に制服をリニューアルするので、ポスター等でPRしていく。

【管理運営グループ】

- ・近隣自治会を中心に地域との連携をとり、これまで以上に学校を理解していただくため、PTA広報誌を自治会で回覧していただいている。頑張っている生徒の姿から、交通マナーに関する苦情のイメージを払拭できたらと考えている。
- ・昨年度に引き続き、防災訓練に地域の方をお招きし、交流の機会を持つ。南足柄市にも参加していただける形を模索したい。ほかにも情報発信できるものがあれば考えていきたい。

【副校長】

- ・職員の働き方改革を進めつつ、生徒の支援・指導もおろそかにせず、生徒の学習環境や、施設面・物品面の更新もできるだけ速やかに行う。
- ・校務のDX化、ICT化が推進されている中、今年度中には大画面のスマートテレビが導入される予定。これにより授業の仕方も変化していく。
- ・学校と家庭間の連絡もこれまで以上にスムーズにできるようになることから、勤務時間外における電話の自動応答制度の導入を予定している。
- ・不祥事防止のため、定期的な研修等を行っている。

各委員より意見・質問 協議 (○: 委員 ●: 学校)

- 昨年度ナーチャリングの有効性について意見を述べた。検討はその後どうなったか。
- グループで検討し、夏休み以降の学校説明回答のイベントで使っていけたらと考えているが、高校においても有効な方法なのか、うまく活用できるのか、参考にお話を伺いたい。
- 大学では、通常のオープンキャンパスとは異なり、1時間の授業を計3回行うプログラムとして、パッケージでの提供をしている。ナーチャリングは次のステップへと進む学生を吸い上げていくものと解釈している。
- スタディサプリについて生徒から「使ってよかった」という感想を聞いた。我々も参考にしたい。
- 一人一台端末に子どもたちが慣れてきている。小中高で連携をとり、連続性のある学びを継続してほしい。
- 通勤途中に、充実している様子の足高生たちを見かける。そうした日常の姿を、WEBや

SNS を通じて伝えていくことが重要。

- ニュースピックアップは自分を知る機会としてよいと思った。ネタ元は新聞になるのか。
- ニュースピックアップはアプリを活用している。高校生年代にとって有用な内容や、興味関心が高いであろう内容の中から選べるようになっている。
- 新しい学校案内の写真が素敵だと思った。学校の穏やかで明るい印象によく合っている。
- 商工会でも職員の負担軽減のため、議事録作成等に生成系 AI を活用し、業務の効率化を図っている。
- 生成系 AI の活用について、参考にしたい。現在ペーパーレス化に力を入れており、企画会議で紙をなくした。次回の学校運営協議会でも紙の資料をなくす予定である。
- スタディサプリについて、個人の能力を伸ばすために必要なものを、選んで受講できるものと捉えている。生徒にどのようなものが人気なのか。
- 小学校から大学入学レベルまで幅広い講座があるが、基本的には授業レベルの課題に取り組んでいる。自ら選択して受講し、振り返りを行うといったところまではいかず、教員主導で受講内容を決めるケースが多いが、自分から積極的に取り組んでいる生徒も見られる。
- 学校の雰囲気が特色になっているが、この部分の発信については具体的にどのようにしているか。
- 公式HPに「ちょこっとピックス」という、学校の出来事を随時更新できるページを用意している。また、公式Xは職員なら誰でも更新でき、更新の際の手続きもHPと比べ簡略化しており、現在は月に1・2回、行事があった時などに関係の先生が投稿している。
- 特別募集の生徒たちに対し、就職関係でどのような指導を行っているか。
- 特別募集の生徒対象の就職指導として、いくつかの科目で授業を展開している。就職したときに必要になるビジネスマナーや事務技能などを取り扱ったり、前期実習で企業に体験学習に行ったりしている。
- 特別募集の生徒の家庭に対してアクションはあるか。
- 一般の生徒と別のタイミングでの面談に加え、保護者対象の進路説明会や、個別教育計画における目標設定・達成状況の確認等を行っている。
- 階段に掲示してある進路に関する情報について、生徒が進路意識をもてるような環境づくりがされている。今日の話を聞いて納得した。
- Ashi活について、中学校でもタイピングを活動に取り入れているので、参考になった。
- 中学校では部活動の地域移行の動きが進んでいるが、部員や教員の間で意識の差が生まれている。足柄高校では部活動の加入率が上がったそうだが、その要因は何か。また、職員のスタンスはどうなっているか。
- 加入率向上の要因の分析はまだできていないが、勧誘の仕方やイベント、声掛けなどについて、生徒たちにも相談しながら取り組むことができた点がよかったですのではないか。しかし、まだ教員の間では、部活動の加入率について危機意識がある。
- 高校の部活動の地域移行はまだ進んでいない現状があり、顧問の尽力で成り立っている部分がある。部活動が生活の中心、ということは減っているが、やるからにはそれなりの結果を、と考えているところもある。管理職からの干渉は特にしていない。
- 部活動の地域移行には自治体の財政が大きくかかわる。中学校からの情報提供が重要ではないか。

- どの生徒が特別募集かわからない状況では、インクルーシブ教育といっても、何を目的としているのかぼやけているように感じる。一般の生徒にはどのような影響があるのか。
- 特性のある生徒にとって、分教室等ではなく普通の高校生活を送ることができ、一般募集の生徒にとって、特性がある生徒にどのように接するべきか、距離感を学ぶことができている。
- 卒業後の進路として、他の高校よりも福祉関連の道を選ぶことが多いのではないかと感じている。
- 自転車のヘルメット着用について、親から伝えたとしても周囲の生徒がしていないと躊躇する。また、教員もしていないなら私もする必要がない、と考えてしまう。どのように捉えているか。
- ヘルメットについては、生徒に着用の必要性を伝え、地域・家庭と連携して進めていかなければいけない。罰則化も検討されているので、情報を共有して取り組んでいく。
- ヘルメットの着用について、県から補助金を出すくらいのことをするべきではないか。命を守ることについて、交通事故等の映像をクラス単位で視聴するなど、交通安全教育を進めてほしい。
- 開校 50 周年に向けた制服変更はチャンスだと思う。予算をかけ大々的なアピールをしてほしい。
- 校務の DX 化で導入される機材について、どのような活用の具体例があるか、教材の研究や共有化について県教委に働きかけてほしい。ICT の活用を通じて、生徒の主体的、対話的で深い学びにつながる方法が見つかるとよい。
- カリキュラム改善について話があったが、具体的な案はあるか。総合的な探究の時間では、社会との接続や、家庭との連携を大切にしてほしい。
- 大幅な変更というよりは、一周回した上の手直しが必要だと考えている。総合的な探究の時間も充実させたい。
- 自由選択の置き方や加配の仕方、TT の科目などについても検討する。

その他

第 2 回学校運営協議会は 11 月に予定している
9 月 6 日、7 日に足高祭（文化祭）を実施予定

閉会